

平成 30 年 7 月豪雨
非常災害対策本部会議（第 22 回）議事録

日時：平成 30 年 9 月 4 日（火） 17:02～17:11

場所：官邸 4 階大会議室

1. 内閣総理大臣発言

- 台風第 21 号は、本日 12 時頃に非常に強い勢力で上陸し、現在は早い速度で日本海沿岸を北上している。近畿地方を中心に各地で猛烈な風雨が吹き荒れ、沿岸部では過去最高潮位の記録的な高潮となっているところがある。台風は今後、日本海沿岸を列島に沿って北上する見込み。引き続き、西日本から北日本の広い範囲で大雨や暴風等への嚴重な警戒を続けていただきたい。
- 現在までに負傷者や家屋の被害が多数発生し、16 府県約 177,000 世帯が停電している。また、関西国際空港では、広い範囲で滑走路が冠水し、空港連絡橋にタンカーが衝突する事故も発生している。被害にあった皆さまにお見舞いを申し上げます。警察、消防、海上保安庁や、電力会社等の関係者において、救出救助・復旧活動を一刻も早く進めるべく対処している。
- 各位にあっては、自治体や関係機関等と連携の下、被害状況の早期把握を進めるとともに、救出救助、インフラの復旧、避難行動の促進など、被害の拡大を極力防ぐため、引き続き、全力を尽くしていただきたい。
- 台風が通過した後でも、局地的に大雨となる可能性がある。国民の皆様におかれましては、ためらうことなく、明るいうちに早めに避難するなど、命を守る行動をとっていただくよう、願います。

2. 被害状況等報告

（内閣危機管理監）

- 人的被害は、現時点で死亡が 2 名、大阪と滋賀で確認されている。さらに心肺停止が 2 名これもいずれも大阪である。軽傷は 5 名だが増える可能性がある。避難指示については、6 府県、避難勧告では、14 府県で出されている。
- 交通の関係では、鉄道、新幹線も一部運転休止になっており、在来線はかなり広範囲に運転休止となっている。航空路線については、721 便が欠航となっている。
- 関西国際空港については、滑走路や駐機場が浸水していることもあり閉鎖中である。連絡橋と鉄道もストップし交通も途絶ということで、現在約 2,000 名以上の方々がターミナルの中で待機中だが、落ち着いている状況。連絡橋に、錨泊していたタンカーが衝突しているが、タンカーの 11 名の乗組員には、けがはないという状況で、気象の状況を見ながら救出をする予定。

(気象庁長官)

- 台風第 21 号は、非常に強い勢力で今日 4 日昼ごろ、徳島県南部に上陸した。台風は、速度をあげながら北上を続けており、明日 5 日にかけて、北陸及び東北の日本海沿岸を通り、北海道の西海上に達する見込み。
- 西日本や東日本では、猛烈な風が吹いており、関西空港では最大瞬間風速 58.1m を記録した。台風を取り巻く雨雲等により猛烈な雨の降っている所がある。海は猛烈にしけており、過去最高の記録的な高潮となっている所もある。
- 台風は更に加速し、北上を続けることから、北日本を含めて、急に雨や風が強まり、台風から離れた東側の地域でも、雨・風の強まる所がある見込み。
- 暴風、大雨、高潮、うねりを伴った高波に厳重な警戒をお願いする。また、落雷、竜巻等の激しい突風に注意していただきたい。

3. 政府の対応等について

(防災担当大臣)

- 台風は、今後も能登半島付近を進んだ後、日本海側沿岸を北上する見込みであり、引き続き暴風や高波、高潮、大雨に厳重な警戒が必要。
- これまで、関係省庁から自治体に連絡員を派遣するなど、情報収集体制等の強化を図ってきているところ。
- 大阪・滋賀で死者 2 人、心肺停止の方が 2 人との報告があった。今後も被害の全容把握に努める必要がある。
- これから夜を迎える。強風の影響もあることから、関係閣僚には、二次災害に十分注意しながら、被害状況の把握、共有に万全を期していただくとともに、被害の拡大防止やライフラインの確保、自治体への協力等、改めて積極的に対応していただくようお願いする。

(以上)